

大阪大学接合科学研究所東京セミナー 「計算科学が拓く溶接研究の新展開」

茂田 正哉

接合プロセス研究部門 エネルギー制御学 准教授

2019年11月25日(月)に、東京(日本橋)の大阪大学 医学・工学研究科東京ブランチにおいて、第10回接合科学共同利用・共同研究拠点大阪大学接合科学研究所東京セミナー「計算科学が拓く溶接研究の新展開」が行われました。

講演に先立ち、接合科学共同利用・共同研究賞の授賞式が行われ、北京工業大学 Bin Xu 氏(テーマ名: The variable polarity plasma arc pressure and its effect on fluid flow of penetration weld pool)、東海大学 太田高裕氏(テーマ名: 残留応力の低減・制御を目的とする接合構造の力学解析—ショットピーニング力学現象の数値解析手法に関する研究—)が受賞されました。

上記2名の受賞講演の他に、アークプラズマと電極ワイヤを連成した溶接熱源シミュレーションと溶込み予測技術への適用(大阪大学 荻野陽輔氏)、溶接・接合プロセスへの粒子法シミュレーションの適用(大阪大学 宮坂史和氏)、溶接ヒュームの集団形成過程のシミュレーション(大阪大学 茂田正哉)、疲労性能を最大化する溶接プロセス条件の探査技術(大阪大学 堤成一郎氏)、溶接時の凝固・組織形成過程の予測シミュレーションとその応用(大阪大学 門井浩太氏)の5件の講演が行われました。

全国の大学や国公立研究所、企業などから20名の参加者があり、活発な議論が交わされました。



接合科学共同利用・共同研究賞授賞式
(Bin Xu 氏と田中学所長)



接合科学共同利用・共同研究賞授賞式
(太田高裕氏と田中学所長)